

競 技 注 意 事 項

- 1 本大会に適用する規則は、2021年度日本陸上競技連盟競技規則による。
- 2 練習について
 - (1) 練習は、プログラム記載の指定された会場で、日程に従い実施すること。
 - (2) 各練習場において、牽引ロープ、ラダー、ミニハードル等の器具を用いた練習は禁止する。
 - (3) 競技場外のジョギングコースでのスパイクの使用、ハードルの設置は禁止する。
 - (4) 本競技場の芝生内での投てき練習は一切禁止する。
- 3 室内練習場使用上の注意
 - (1) 走練習のみとし、砂場は使用禁止とする。
 - (2) 走る方向は、東側（1500m スタート側）から西側（200m スタート側）への一方通行とする。
 - (3) 用具（ブロック、ハードル等）の持ち込みは禁止する。
 - (4) 室内練習場内での、シート・荷物などを置いての場所取りは禁止する。
- 4 招集について（トラック・フィールドとも）
 - (1) 競技者招集所は、本競技場第2ゲート外側（1500m スタート付近）に設ける。
 - (2) 競技者は招集開始時刻に招集所で待機し、最終確認を受けること。その際係員にアスリートビブス・氏名・校名とスパイクピンの点検を受け、競技者係の誘導に従うこと。なお、招集後は、待機場所を離れないこと。

招集の時刻は、トラック競技 30分前開始、20分前完了
組ごとに招集時間が異なるためタイムテーブルに記載の時刻を厳守すること

フィールド競技	50分前開始、40分前完了
※棒高跳のみ	70分前開始、60分前完了

混成競技（その日の第1種目）30分前開始、20分前完了

 - (3) 招集完了時刻に遅れた選手は棄権とみなし、出場を認めない。
 - (4) 棄権する場合は、招集開始時刻までに競技者係に申し出ること。
 - (5) 2種目を同時に兼ねる選手は、競技者係に2種目同時届を提出し、競技進行に支障のないようにすること。
 - (6) 混成競技の招集は、第1日目及び2日目の最初の種目については招集所で行う。2種目以降は混成競技者控え室で確認を受け、係の指示に従うこと。
 - (7) 入退場時の移動の際は、審判員の指示に従い規律ある行動をとること。トラック競技において、スタート地点に戻る場合は、競技場の外または、ダッグアウトを通過して戻ること。
 - (8) リレーのオーダー用紙は、各ラウンドの第1組目の招集完了時刻の1時間前までに招集所役員に提出すること。変更がない場合でも提出すること。オーダー用紙は予選・準決勝・決勝とも招集所に準備している。オーダー用紙の提出がない場合は棄権とみなす。
- 5 アスリートビブスは各種目とも、胸・背部両面に付けること。ただし、跳躍種目は背（胸）部に1枚でもよい。短距離種目・100mH・110mH・400mHの決勝及び4×100mRのアンカーは別ビブスを右腰につけること。
800m・4×400mRのアンカーは、右腰に別ビブスを使用する。1500m・3000m・5000m・3000mSC・5000mWは胸・背・腰に別ビブスを使用する。別ビブスは主催者が用意する。選手は招集時に自分のアスリートビブスを持参し、競技者係から別ビブスを受け取る。なお、その別ビブスはフィニッシュ後、直ちに返却すること。
混成競技最終種目についてはそれまでの合計得点における順位の別ビブスを右腰につけること。
- 6 競技規則第162条7より、1度の不正スタートでも失格とする。ただし、混成競技においては、不正スタートは1回のみとする。
競技規則第162条5(a)(b)(c)の不適切行為については、注意にとどめる。警告対象として2枚のイエローカードの提示を受けた競技者については当該種目のみを失格とする。
- 7 走路順およびフィールド競技の試技順は、プログラム記載順序による。ただし、準決勝・決勝の組合せレーン順の決定は主催者で行う。なお、男子5000m・女子3000mについては、参加人数によって二段階スタート方式で行う場合がある。
- 8 選手の変更は認めない。プログラムの記載に誤りのある場合は、当日の競技開始1時間前までに本部総務員に届け出ること。
- 9 携帯電話・ビデオ・音楽プレーヤーもしくは類似の機器の競技会場内への持込は禁止する。
- 10 競技用具は競技場備え付けのものを使用する。ただし、棒高跳のポールと投てき用具については、個人のものの使用を認める。投てき用具の検査は、競技開始1時間30分前から1時間前まで100mスタート付近の倉庫内で行う。
※フィールド競技で使用する炭酸マグネシウム（タンマグ）については各自で持参したものを使用すること。

- 11 フィールド競技においては、次の記録に達しない場合は計測しない。また、その試技は記録無しとして扱う。（天候などにより変更することがある）

	走幅跳	三段跳	砲丸投	円盤投	ハンマー投	やり投
男子	5 m 8 0	1 1 m 9 0	9 m 0 0	2 5 m 0 0		3 5 m 0 0
女子	4 m 3 0	9 m 0 0	8 m 0 0	2 2 m 0 0		2 4 m 0 0

- 12 跳躍競技のバーの上げ方は、次のとおりとする。（天候などにより変更することがある）

種目	練習			
走高跳（男）	1 m 5 0	1 m 5 5 ~ 1 m 8 5 まで 5 c m きざみ		以後 3 c m ずつ
走高跳（女）	1 m 3 5	1 m 4 0 ~ 1 m 5 0 まで 5 c m きざみ		以後 3 c m ずつ
棒高跳（男）	任意の高 さで実施	2 m 5 0 ~ 3 m 8 0 まで 2 0 c m きざみ	3 m 8 0 ~ 4 m 5 0 まで 1 0 c m きざみ	以後 5 c m ずつ

※女子棒高跳については当日のコンディションにより現地にて決定する。

但し 2 m 4 0 まで 2 0 c m きざみ、3 m 0 0 までは 1 0 c m きざみ、以後 5 c m ずつ

1 位と中国大会出場者の決定におけるバーの上げ下げは次のとおりとする。

走高跳 2 c m 棒高跳 5 c m

※混成競技の走高跳については最初の高さを混成競技審判員に競技開始調査用紙にて記入・提出し、協議の上決定する。その後のバーの上げ方は 3 c m ずつとする。

- 13 スパイクシューズのピンは、全天候舗装用で 1 1 本以内とし、長さは 9 mm 以下とする。ただし、走高跳とやり投は、1 2 mm 以下とする。

シューズ底の厚さは以下の範囲内とする。

種目	シューズ底最大の厚さ	補足
8 0 0 m 未満のトラック種目 (ハードル含む)	2 0 mm	
8 0 0 m 以上のトラック種目	2 5 mm	
フィールド種目 (三段跳除く)	2 0 mm	競技者の前部のソールの厚さは踵の厚さを 超えてはならない。
三段跳	2 5 mm	
ロード・競歩	4 0 mm	

- 14 危害防止について

- (1) セパレートレーンの競走競技においては、フィニッシュライン通過後も自己レーン(曲線)に沿って進むこと。
(2) 投てき競技においては、審判員の指示以外に勝手に練習しないこと。

- 15 各種目とも、上位 3 位までに入賞した選手は、決勝アナウンス終了後ただちに（5 分以内、本人が他の種目に出場の場合は代理人）100m フィニッシュ側の表彰控席に集合すること。表彰は、競技の服装(ユニフォーム)で行う。

- 16 声をだしての応援は禁止する。競技の進行の妨げとなるような応援はしないこと。また、スタンド最前列に立っての応援は観覧者の迷惑となるので禁止する。

- 17 観客席でのシート等による場所取り・簡易テントの設置は禁止する。また、コンコースでのシートのみ
の場所取りは認めるが、通行の妨げにならないように注意すること。

- 18 医務員は、競技場のメインスタンド下の医務室で待機している。大会出場中の急病・事故については、
応急処置を行うが、その後の責任は負わない。

- 19 大会運営に支障、問題が生じた場合は総務委員で協議して解決にあたる。抗議は、結果発表後 3 0 分以
内に該当校の監督が各支部専門委員に申し出ること。

- 20 補助員を原則として各校 1 名以上出すこと。補助員になっている生徒は、第 1 日目は 9 : 4 0、第 2 日
目・3 日目は 8 : 3 0 に正面ピット付近に集合すること。（放送をかける）

- 21 貴重品の管理は、各自で行うこと。紛失の責任は負わない。

- 22 各種目とも上位 6 位以内に入賞した選手(男女競歩・男女混成・女子三段跳・女子ハンマー投は 4 位以
内)及びチームは、6 月 1 7 日(木)~6 月 2 0 日(日)に山口県で開催される第 7 4 回中国高等学校
陸上競技対校選手権大会への出場権を獲得する。該当選手の監督は、競技場正面入り口の受付にて、必
ず大会期間中に申込手続きをすること。

- 23 ゴミは各校・各自で持ち帰ること。競技終了後の清掃は、
1 日目は岩柳・徳山地区、2 日目は長北・下関地区、3 日目は山防・宇部地区で行うこと。